

府立箕面東高等学校の取組み

(1) 学校教育目標(めざす生徒像)

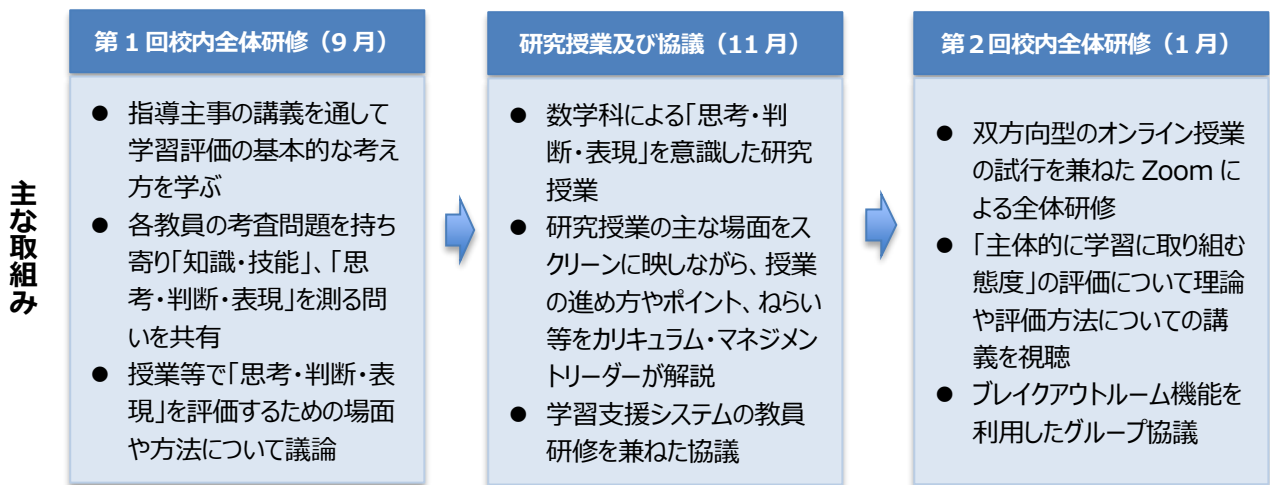
生徒一人ひとりを大切にする教育の実践を通して、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。アドミッションポリシーは次の3つである。

- チャレンジ精神にあふれる生徒
- 自分の力を人や社会のために役立てる気持ちの強い生徒
- 規律を守り、学校生活を充実させたい生徒

(2) 主な取組みと組織体制の準備

テーマ…「新学習指導要領に基づいた評価の在り方について校内研修を行う」

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、教員間における認識を揃えていく。



(3) 主な実践とその工夫

① 考查問題について個々の現状を教科内で共有する

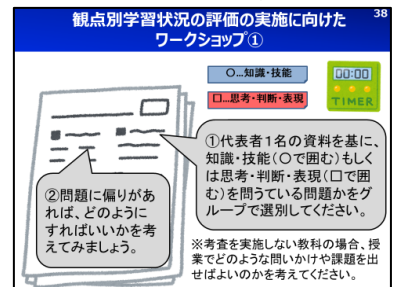
第1回校内全体研修では、「新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方」について学習評価の目的や、単なる成績付けにしないためにどうすれば良いのか等を学習しました。

ワークショップでは、各教員が考查問題を持ち寄りました。教科ごとに考查問題の中で「知識・技能」を測る問いはどれか、「思考・判断・表現」を測る問いはどれかを考查問題用紙に直接マークする作業を行いました。その後、教科ごとに個々の現状を共有しました。結果どの教科も「思考・判断・表現」を測る問いが少なく、「知識・技能」に偏った考查になっていることを認識することができました。

その後、考查問題も含め、授業で「思考・判断・表現」をどのように見取るかについて、教科ごとのグループで議論しました。しかし「思考・判断・表現」を見取る場面について、具体的な案を記入している教科は多くありませんでした。このことから、研究授業を通して、実際どのように「思考・判断・表現」を見取るのかを深める必要があることを全体研修のまとめとして確認しました。



ワークショップの様子



ワークショップで使用したスライド

② 研究授業・協議で生徒も教員も ICT を効果的に使用する

数学科の研究授業では、今年度から導入したばかりの C-Learning という学習支援システムの教員研修も兼ねて、授業を展開しました。C-Learning はスマートフォンやパソコンを使った学習支援クラウドサービスで、オンライン授業の試行の中で導入していました。このサービスを使うと、問題や解答データのやりとり、授業中の意見表明、小テスト等が容易に行うことができます。

授業内容は「三角比の相互関係」です。公式をいきなり教えるのではなく、「具体的な数値計算から生徒たち自身が気づき、公式を導かせる」ことをねらいとしました。課題に取り組む前には「絶対見つけたい」という生徒の発

問題1
sinAの値がわかっているとき、cosAの値を求めるためには、どの式を使えばよいか。

①

$$\tan A = \frac{\sin A}{\cos A}$$

②

$$\sin^2 A + \cos^2 A = 1$$

③

$$\tan A = \frac{\sin A}{\cos A} \text{ と } \sin^2 A + \cos^2 A = 1$$

④ わからない

C-Learning で出題した問題



授業の工夫を C-Learning で入力しました。

言があり、相互関係に気づいて答えた生徒の発言を受けて「ホンマや、すごい」という声飛び交う授業になりました。終盤では問題を解くためにどの公式を使うべきかを考えさせる問題を C-Learning で出題し、生徒たちが各自のスマートフォンで入力する姿が印象的でした。

研究協議では研究授業の主な場面を撮影した写真を最初にスクリーンに映しながら、授業の進め方やポイント、ねらい等を解説しました。その結果、皆が共通イメージをもった状態で進むことができました。また、新型コロナウイルス感染症対策としてなるべく会話を控えるために C-Learning を使って協議を進めました。研究協議であるにもかかわらず、ほとんど喋らない一風変わった様子になりました。

それは、参加者が質問に対して C-Learning で回答し、それをリアルタイムでスクリーンに映し出し、共感できる回答にいいね！ボタンを押すというものです。その後、多く票を獲得した教員数名に詳細を語ってもらいました。大勢が同じ場所にいながらも、とても静かな、しかし非常にアクティブな研究協議になりました。この方法は、普通の授業でも使えるだけでなく、コロナ禍で懸念されるグループワークに代わる方法になると感

③ 双方向型のオンライン授業の試行を兼ねた Zoom を使用した全体研修

第2回の校内全体研修では双方向型のオンライン授業の試行も兼ね、Zoom を活用したオンライン研修を試みました。ホスト側の LAN 教室パソコンから配信する形をとり、それをスマートフォンから参加したい教員は各教室で、校内タブレットで参加したい人は Wi-Fi 環境にある図書室でといった具合で、様々な場所から「主体的に学習に取り組む態度」の評価について講義を受けました。またブレイクアウトルーム機能を利用して「主体的に学習に取り組む態度」の各自の取り組みや気になること、評価方法についてグループ協議を行いました。



Zoom を活用した校内研修の様子

箕面東高校の研修主担者は各研修の参加率の上昇や、職員室等において学習評価に関する会話が増えたことから「教員の学習評価に対する意識が高まった」と感じています。また ICT を利用した研修では、「斬新で面白かった」、「授業でも使えるね」、「飽きずに参加できた」といった肯定的な意見がたくさん出ました。そして、授業や講演会等で ICT を活用する場面が学校全体として増えていきました。